

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 6 年度病害虫防除情報第 6 号

茶のチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニの発生状況についてお知らせします。

各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

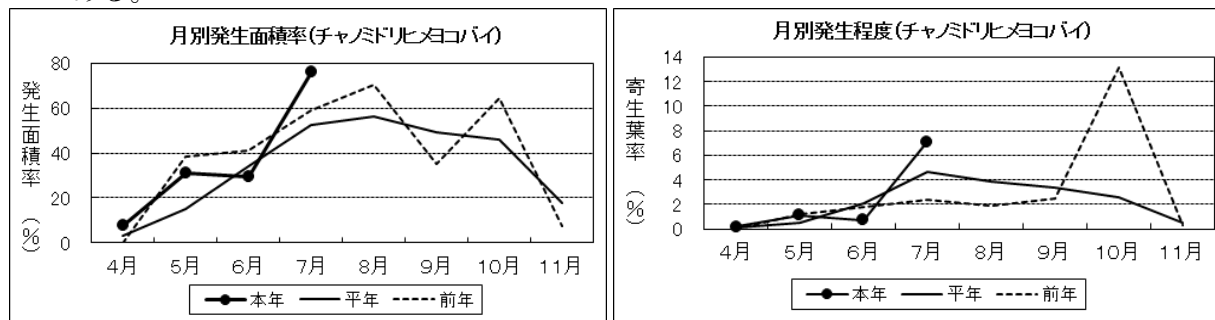
茶のチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニが多くなっています。適期防除に努めてください。

1 作物名 茶

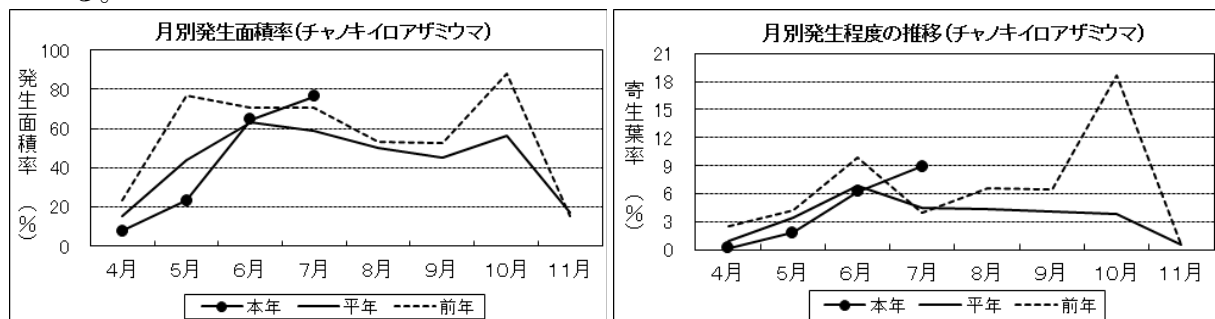
2 病害虫名 チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ

3 発生状況（経過）

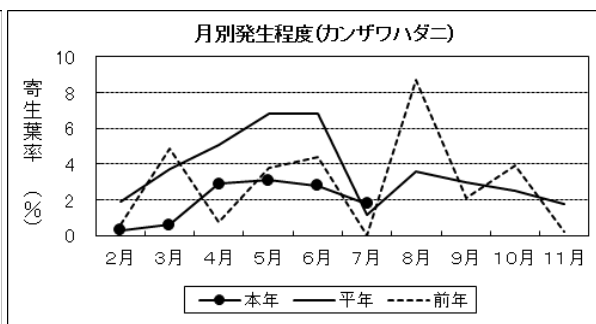
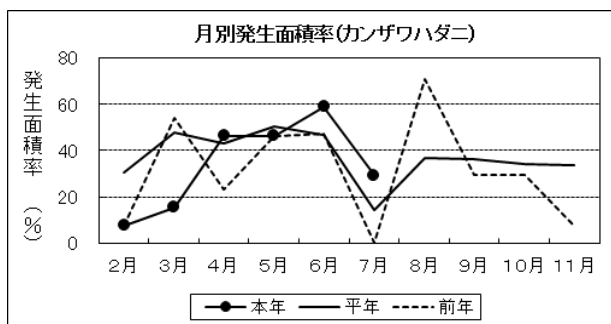
1) 7月中旬の巡回調査の結果、チャノミドリヒメヨコバイの発生面積率は76.4%（平年52.8%）で平年に比べ多、寄生葉率は7.1%（平年4.7%）で平年に比べてやや多である。



2) 7月中旬の巡回調査の結果、チャノキイロアザミウマの発生面積率は76.5%（平年59.1%）で平年に比べやや多、寄生葉率は8.9%（平年4.3%）で平年に比べて多である。



3) 7月中旬の巡回調査の結果、カンザワハダニの発生面積率は29.4%（平年14.5%）、寄生葉率は1.8%（平年1.2%）でいずれも平年に比べてやや多である。



4 防除上の注意

1) チャノミドリヒメヨコバイ

- ・これからの時期では、秋芽に発生が多く、加害されると減収、品質低下が著しいため、萌芽期から開葉初期に薬剤散布を行う。
- ・同時期にチャノキロアザミウマが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。

2) チャノキロアザミウマ

- ・これからの時期では、秋芽の1～2葉期の被害防止に重点を置き、多発時には5～7日間隔で2回の薬剤散布を行う。
- ・主に葉裏に生息しているため、萌芽期から開葉初期に、若葉の裏によくかかるように薬剤散布を行う。
- ・同時期にチャノミドリヒメヨコバイが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。
- ・幼木園や中切り更新を行った園では常時新芽が存在し、長期にわたり被害を受けやすいので注意する。

3) カンザワハダニ

- ・乾燥が続くと発生が多く、窒素やリン酸の多用で発生が助長される。
- ・防除適期は産卵開始期(2月下旬～3月上旬)および越冬前(10月中～下旬)であり、この時期の防除が充分でないとい、二番茶期に多発生することが多いので注意する。また、発生が多く見られるような茶園では、秋芽生育期にも防除を行う。
- ・主に葉裏に生息しているため、薬剤散布は葉の裏によくかかるよう丁寧に行う。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場茶業支場、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 若杉
 TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-2127
 ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp